

【小・中・高等学校における「教科」「総合的な学習の時間」「特別活動」など、学校の教育活動全体を通し継続的に実施し、喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関する児童生徒の「実践力」を育成する】

(1) 学年ごとの指導例《小学校》

学年	教科領域	題材等	指導のねらい	主な内容
低学年	図工	こんなあそびがあったら	遊び場を作るときに使う、接着剤からその使い方について注意し薬物乱用防止を図る。	1.換気の大切さ 2.接着剤の使い方
	道徳 3-(2) 生命	やめなさいよ	事の善悪を考え、他の人に迷惑をかけない。気持ちを育てる。誘われてもやってはいけないことを断る勇気、止める勇気の大切さを知る。	1.善悪の判断 2.誘いを断る勇気 3.いけないことを止める勇気
		大好きな木	身近にある命に気付き、命を大切にしようとする心情を養う。	1.庭木とのふれあいから命について考える。 2.「芽」を出した庭木を通して生命の尊さに気づく。
	特別活動 (学級活動)	わたしたちの大切な体	健康の保持増進には、運動・休養・偏りのない食事が大切であることと、たばこの煙は体に害を与えることがわかる	1.運動・休養・食事の大切さ 2.健康とたばこのけむり
		たばこのけむりは体にわるいの？	いろいろな場所で、禁煙に対する働きかけがあることを知りたばこの煙は、病気の原因となることが分かる。	1.禁煙席と喫煙席 2.副流煙の害
		ストーブがはいたよ	暖房器具の使い方や、やけどの予防、やけどの処置の仕方を知る。空気も様々な原因で汚れることを知り、健康な生活を送るために換気が大切であることを理解する。	1.やけどの予防と手当 2.空気の汚れ 3.換気の大切さ
中学年	体育 (保健領域)	健康な生活(3年)	健康の保持増進のためには、部屋の中や手元の明るさの調整、部屋の換気など、生活環境を整える必要があることを理解する。	換気は、風邪を予防したり、有害な空気を外に出したりすることができ、大切であることを知る。
		体の発育(4年)	体をよりよく発育させるためには、食事、運動、休養や睡眠が必要であることを知る。	成長期に喫煙、飲酒を始めると、体の成長に悪影響があることを知る。

	道徳 1-(4) 勇気 4-(1) 公徳心	思い切って言ったけど 四つのコーナー	正しいと思うことは、勇気を持ち、進んで実行しようとする態度を育てる。 社会には約束やきまりがあることに気づかせ、公共の場で公徳心を発揮する態度を育てる。	誘惑に負けず、勇気を持って行動することが大切であることを知る。 社会のきまりや約束について、「四つのコーナー」を利用して考える。
	特別 活道 (学級 活動)	新しい命の始まり (性教育)	命は、親の愛情によって生み出され、かけがえのないものであり、この世の中に存在していることの素晴らしさを知り、自他共に命を大切にしようとする心を育てる。	赤ちゃんの始まり。妊娠中、タバコや酒、薬などが、胎内の赤ちゃんに大きな影響を与えてしまう。
		知っていますか？ タバコの危険性	タバコが及ぼす健康への悪影響について理解し、タバコを吸わないという気持ちを育てる。	喫煙実験の観察をしたり、喫煙と病気の発症や死亡との関係を知る。
		家庭や地域に知らせよう	喫煙などの薬物の害について、学習したことを新聞にまとめたり、ポスターを描いて呼びかけることで、自分もやらないという自覚を持つとともに、家庭や地域から薬物を減らしたいという気持ちを持つ。	薬物の害について学習したことを新聞やポスターにまとめ、地域を啓発する。
高学年	体育 (保健 体育)	心の健康 (たばこってなに?) (5年生)	・たばこが健康に及ぼす害について、精神面と健康面の両方から考える。 ・たばこの箱や肺の写真を見てからだの影響を知る。 ・法的根拠「未成年者喫煙禁止法」があることを知り、喫煙は成人より未成年の方が大きな影響を受けることを知る。 ・たばこの煙が周りの人にも大きな影響を与えていることを知る。	1.たばこや喫煙について知っていることをブレイクストーミングで出し合う。 2.たばこの箱や肺の写真を見て、身体に与える影響について考える。 3.未成年者喫煙禁止法があることを知る。
		病気の予防 (6年生)	・ブレーキの利かないサイクリングの動作から、アルコール依存症について考える。 ・飲酒、薬物乱用などの行為は健康を損なう原因となることを理解し、健康によい生活行動を実践することが必要であることをレバー実験を通して、目に訴え理解できるようにする。	1.サイクリングゲームから、飲酒の怖さについて学ばせる。 2.レバー実験をとおして身体の中の変化に気づき、害について知る。
	図工 (ポスター)	みんなに伝えよう (5・6年)	・みんなに知らせたいことや伝えたいことがはっきり分かるように絵を描く。 ・喫煙・飲酒・薬物乱用防止ポスターを作って地域に貼る。 ・ポスターを描くことで薬物の恐ろしさを知る。	1.伝えたい事が分かるような絵が描けるように工夫する。 2.薬物の恐ろしさをみんなに知ってもらうためにポスターを描く。
	道徳	雨が上が	・人間にとって死というものがいかに重いもの	1.生命の不思議さ、かけが

	3-(2) 生命	るまで (5年)	であるかを知り、生命を大切にすることを養う。	えのなさはどんなところに現れているかを考える。
		ぼくの考え、わたしの判断 (6年)	社会生活上のルールや善悪の判断基準を自分の中に持ち、遵法の精神を養う態度を育てる。	1.良い悪いの判断基準について考える。 2.判断や行為で迷いやすい場合を考える
	特別活動 (学級活動)	たばこの誘いを断る方法を考えよう (5年)	・喫煙の誘いを断る方法を考え、ロールプレイングを行う。 ・教師のロールプレイングを見て、どのように行動すべきか考える。 ・グループごとに台本の空欄に入る言葉を考え、それに沿ってロールプレイングを行う。	1.ロールプレイングを(実施上の留意点に注意して)行う。 2.主人公の立場に立って喫煙を断る方法を考える。
		誘われたらどうする (6年)	喫煙や飲酒をすすめられた場合には、はっきりと上手に断るための対処方法を学ぶ。(年齢が低いほどアルコール中毒になる確率が高い事を知る。)	ロールプレイングを通して具体的な断り方を身につける

(2) 学年ごとの指導例《中学校》

学年	教科領域	題材等	指導のねらい	主な内容・方法
第1学年	道徳	自分を大切に	自尊感情を高めると同時に、他の人も自分同様に大切な存在であることに気づく。	1.かけがえのない存在である自分 2.協調性の大切さ
	特別活動 (学級活動)	たばこの害	・喫煙の有害性と、喫煙が全身に及ぼす健康被害について理解する。 ・身体が成長しつつある若い時には喫煙をしないという生活習慣の大切さを理解する。	1.たばこの害 2.喫煙が心身に及ぼす影響 3.喫煙に関する自分の考え
第2学年	理科	脳と神経	脳について学習する中で、喫煙・飲酒・薬物乱用の影響について理解し、有害性について知る。	1.脳と神経 2.脳や神経に与える喫煙・飲酒・薬物の有害性
	道徳	君ならどうする	正しい行動選択について考える。	1.正しい判断力 2.周囲への配慮 3.遵法精神
	特別活動 (学級活動)	飲酒の健康への影響	・飲酒の心身への影響について理解する。 ・未成年のうちは飲酒しないという態度が身につくようにする。	1.お酒についての知識 2.飲酒の害 3.飲酒に対する自分の考え

第3学年	保健体育（保健分野）	病気とその予防	<ul style="list-style-type: none"> ・喫煙・飲酒・薬物乱用のきっかけの事例などから、開始を助長する心理社会的要因について考える。 ・喫煙・飲酒・薬物乱用への誘惑に負けない意志と行動選択の必要性について考え、ロールプレイングを通じた実践力を高める。 	<ol style="list-style-type: none"> 1.きっかけの事例 2.講義形式による授業とグループワーク事例を用いた学習へ 3.シナリオ作り 4.ロールプレイング シナリオ（たばこ） シナリオ（酒） シナリオ（薬物）
	特別活動（学級活動）	明るく生きる	進路選択や決定を前にして、不安な状態を少しでも和らげ、希望を持って学校生活を送る。	<ol style="list-style-type: none"> 1.今の状況の自分たち 2.思春期の特徴 3.ストレス解消
	特別活動（学級活動）	薬物乱用について考えよう	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物についての知識、および薬物の乱用による心身への影響を理解する。 ・誘惑に負けない強い意志を持って生きる姿勢を培う。 	<ol style="list-style-type: none"> 1.薬物についての知識 2.その有害性 3.法律により禁止 4.勇気を持ってNo！
全学年	総合的な学習の時間		喫煙・飲酒・薬物については、健康教育の視点、非行防止の視点、環境教育の視点、遵法精神や自尊感情を高める等、複数の教科・領域にわたる横断的・総合的な課題を含んでおり、総合的な学習の時間で取り上げることができる。また断り方のスキル等、具体的・現実的な対処の仕方を学習することができる。	<ol style="list-style-type: none"> 1.喫煙・飲酒・薬物乱用についての知識 2.自分たちの周囲の状況の把握 3.勇気をもってことわる
	学校行事	薬物乱用防止教室	喫煙・飲酒・薬物乱用防止について、校外・校内の講師から実態・有害性・事例・刑法面・断り方等を学び知識・理解を深める。さらに判断力・実行力を培う。	<ol style="list-style-type: none"> 1.たばこの害 2.飲酒の害 3.薬物乱用の害
	学校行事	学校保健委員会	<p>係の生徒を企画・立案段階から主体的に参加させ、喫煙・飲酒・薬物乱用防止に関して調べていく。</p> <p>一般生徒（全校生徒）だけでなくPTAや地域の人たちも含めて対象とし、それらの有害性について理解を深め、子どもと大人も自らの考え方を確かなものにする。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1.喫煙・飲酒・薬物乱用防止カレンダー・ポスターの作成 2.地域啓発活動への参加

(3) 学年ごとの指導例《高等学校》

学年	教科領域	題材等	指導のねらい	主な内容
第1学年	保健体育	現代社会と健康 ア) 社会生活と健康	薬物乱用は、健康と深い関わりがあり、ここでは乱用の種類や、喫煙・飲酒に対する予防と知識を理解させる。特に誘いに対する断り方を学ばせる。	1.乱用される薬物の種類 2.喫煙・飲酒・薬物乱用と健康の関わり。 3.誘いに対する断り方。
	地理	大麻の生産と流通	世界各国の大麻の生産、現状、南北問題について理解させる。	1.世界の大麻の産地を知り大麻、覚せい剤の撲滅に向けて正しい理解力と判断力の育成を目指す。
	生物	脳の働き	薬物は脳に依存性があるので、科学的に理解させたいので、防止する判断力を身に付ける。	1.脳の機能と生理。 2.薬物依存。 3.薬物乱用の弊害。
	特別活動	アサーティブな人間関係	喫煙・飲酒・薬物乱用に限らず、行動の誘いに対して自分の気持ちを伝えて、人間関係を壊さずに断ることの良さを体験的に学習させる。	1.アサーティブ(自己主張) ノンアサーティブ(優柔不断)、アグレッシブ(攻撃的)などの対応の違い。 2.喫煙・飲酒・薬物の勧めに対する断り方をロールプレイングで体験する。
	特別活動	自分の意見や考え	相手のことを思いやることの大切さ、相手が不快にならない言葉づかいと行動、意志を伝える方法について学ぶ。	1.HRでの席替えの際に友人に交換してほしいと言われたことを想定したケーススタディ。
第2学年	保健体育	精神の健康	心身相関の仕組みで心と体の関わりについて、不安や悩みなど強い精神的なものが関わって起こる現象、さらに薬物との関わりについて学ぶ。	1.あがりとは。 2.自律神経と心身相関の仕組み。 3.本人がどのような時に怒るのか、自分で憶えているのか。
	国語	洒落にならない 7・5・3	薬物の誘いは日常的な場面で身近な人から行われる。本人が薬物を誘われた時に断るスキルを考えさせる。	1.グループごとにケーススタディを行う。 2.話し合いの結果を発表させる。
	化学	有機溶剤について	有機溶剤の特徴と危険性と安全な利用の仕方について認識させる。	1.有機溶剤の化学的内容・成分。 2.有機溶剤の安全な利用と乱用の予防。

	特別活動	薬物乱用防止教室 事前指導	ビデオ上映などで情報を提供し、薬物に関する基礎的な知識と誘いに対して拒否できるための動機づけを行い、講演会に臨ませる。	<ol style="list-style-type: none"> 1.防止教室実施の意義の理解。 2.健康について考える。 3.コミュニケーションスキルの習得。
	特別活動	人間関係を大切に	自分を見つめ直すことの大切さと将来自分が生きていく上での人間関係の大切さを理解させる。さらに薬物との関係で断ることの大切さ、断り方を学ばせる。	<ol style="list-style-type: none"> 1.薬物に対する抵抗スキルの習得。 2.断り方をどのようにしたら良いか、断り方のスキルなど。
	特別活動	植物と農薬	植物の一生について理解し、タネから収穫の過程における農薬の意義とその成分、人間との関わりについて学ばせる。	<ol style="list-style-type: none"> 1.農薬の必要性。 2.人間への農薬の影響について生徒たちの経験から話し合う。
	特別活動	広告のテクニックを見破る	情報化社会の中で人間に与える影響の一つとして、広告・宣伝のテクニックを理解させ、現実のものとして存在する薬物乱用についてどう考えていくのかを学ばせる。	<ol style="list-style-type: none"> 1.雑誌などの広告の現状を見て、各自がその印象と影響について考える。 2.危険な警告表示などをどう見るかについて、話し合う。
第3学年	特別活動	社会的マナー	社会に巣立つ際に、必要なマナーについて学ばせる。	<ol style="list-style-type: none"> 1.各自に問いかけて聞いてみる。 2.ロールプレイングで基礎を学び、最終的にまとめる。
	特別活動	依存しない人生	自分の人生は自分で選択し、たばこや酒に依存しない選択の方法について学ばせる。	<ol style="list-style-type: none"> 1.依存の理由を考えさせる。 2.将来、依存しないために、今、自分にできることについて考え、グループで話し合う。
	特別活動 (生徒会活動)	文化祭	薬物が生徒の身近な問題として重要なことを認識させ、さらに現状の様子などについて学んだことを発表させる。	<ol style="list-style-type: none"> 1.薬物に関する現状テーマの設定。 2.テーマに基づいて内容を明らかにし、分析してまとめさせる。 3.公表させる。

(4) 指導の展開例《小学校》

特別活動 学級活動(1学年)

わたしたちの大切な体 「体にいいこと、わるいこと」

指導者 学級担任

ア 題材設定の理由

入学してから子どもたちは、健康診断、歯の衛生週間、目の愛護週間などの行事をとおして、自分の健康について学習してきた。また、清潔にすることの大切さについて学活で学習した。喫煙という行為は、ほとんどの子どもたちが目にしたことがあり、クラスの半数の子がたばこを買ったこと(頼まれて)がある。また、喫煙が体によくないと思っている児童も多い。

本時では、体に良いことや良くないことを考えながら、健康を保つためには、運動・休養(睡眠)・偏りのない食事が大切であることや、喫煙が健康に良くないことを理解させたい。そして、自分の生活をふり返り、自分の体を健康に保つためにどうしたらいいのかということを考えるきっかけとしたい。

このような学習をとおして、自分の健康に関心を持ち、自分の健康を守ろうとする意欲を持つことが、喫煙・飲酒・薬物乱用防止の第1歩となると考え、本題材を設定した。

イ 指導のねらい

- (ア) 健康の保持増進には、運動・休養(睡眠)・偏りのない食事が大切であることを理解する。
- (イ) たばこの煙は体に害を与えることを理解させる。

ウ 展 開

展 開 過 程	学 習 内 容 ・ 活 動	指 導 ・ 支 援 上 の 留 意 点	評 価
導 入	体の具合が悪い時を想起し、そのときの様子や感じたことを発表する。	・関心を喚起するために、ペープサートを使い、簡単なお話をする。	自分の経験を発表する。
な か	健康な体で生活するために必要なことや、体に良くないことについて考える。体の健康のためには、運動・休養(睡眠)・偏りのない食事(好き嫌いせずに食べる)が大切なことを知る。たばこの害について知り、喫煙が体に良くないことを理解する。	・絵を提示し、理解を助ける。 ・「たばこの害を知ろう」という紙芝居を使い、説明する。 ・できるだけ子どもたちにわかりやすい言葉で説明する。	健康に大切なことやたばこの害が分かる。
ま と め	わかったことや、感じたことを書き、学習のまとめをする。	・学習したことをもとにして、自分の生活をふり返り、気をつけたいことも考えながら、ノートに書かせる。	健康について自分なりの感想が書ける。

エ 考 察

- (ア) ペープサートや紙芝居を使いながら授業を進めたので、児童は楽しく興味を持って学習することができた。たばこの害を説明するときに、かいわれ大根の発芽実験の写真を見せたところ、成長の違いに驚きの声が挙がり、意識づけられた。学習のまとめで書いた児童の感想では、26人中20人が「たばこは体に悪いことがわかった。」と書いていた。また、そのことを家族に伝えたいとか、たばこを吸っている人に近づかないようにするという感想もあった。このことから、児童は、たばこ(たばこの煙)が体に良くないということを理解することができたと考えられる。
- (イ) 児童の実態にもあるように、たばこは児童の身近にあり、たばこを吸う姿も目にふれやすい。そこで、1年生の段階から、たばこ(主流煙や副流煙)の害について考えることは喫煙防止につながる大切な指導だと思う。学年の発達に合わせて理解が深まっていくように、今後の指導を積み重ねていくことが必要であろう。
- (ウ) 授業の中で、「たばこは体に悪いから、お父さん、やめたよ。」「うちでは、ベランダで吸っているよ。」「たばこを吸うと、肺がんになるんだって。」などのつぶやきがあった。今日、分煙や禁煙の大切さがいろいろな場面で聞かれるようになったが、学校で喫煙防止教育を行っていることを保護者の方々や地域の方々に知ってもらい、家庭や地域と一体になって指導していくことが大切である。

たばこには、体に良くないものが、
たくさん含まれているよ。



体のいろいろなところに
悪い働きをするんだね。



たばこは吸わなくても副流煙を吸う
と肺はどうなるのが実験してみよう。
(2年生)



体に悪いんだ(2年生)



ア 題材設定の理由

これまで子どもたちは、喫煙・飲酒など薬物乱用防止について、保健集会や養護教諭の話を中心に学習してきており、たばこは害があることを大まかには分かっている。しかし、喫煙が健康に及ぼす悪影響について、きちんと理解しているわけではない。中学生がたばこを吸い始めたきっかけで多いのは、「好奇心」「友達に勧められて」というものである。小学校の段階から喫煙の害について学習し、正しい知識を持つことで、誘惑に負けず、自分の健康を守ろうとする意欲を育てていくことが大切である。

ここでは、あらかじめ、国語「グラフをもとに」の小教材で喫煙開始年齢別・１日喫煙本数別にみた肺がん死亡率のグラフを読み取り、未成年者の喫煙が大人以上に大きな悪影響を受けることを学習できるようにした。これをもとに、本時では実験観察を取り入れながら、喫煙が肺がんだけでなく、様々な病気の発症や死亡に深く関係していることを理解し、自分の健康を守るために絶対たばこを吸わないという気持ちを育ててほしいと考え本題材を設定した。

イ 指導のねらい

（ア）たばこが及ぼす健康への悪影響について理解し、たばこを吸わないという気持ちを育てる。

ウ 展開

展開課程	学習活動・活動	指導・支援上の留意点	評価
導入	国語「グラフをもとに」で、喫煙と肺ガンの関係について読みとったことを発表する。	・喫煙開始年齢が早いほど、また本数が多いほど肺ガンの死亡率が高くなることを確認する。	自分の発見を発表できたか。
なか	喫煙の実験を見て、肺の変化の様子を観察する。 喫煙が肺だけでなく、体の様々な器官に影響を及ぼしていることを知る。 非喫煙者と比較した喫煙者の死亡率を知る。	・脱脂綿を使った煙吸い込み実験を行い肺の汚れを観察させる。 ・体の絵を用意し、理解を助ける。 ・喫煙の健康への影響について理解できるように、副流煙の害については別の機会に指導するようにし、ここでは扱わない。	喫煙が健康に及ぼす影響について理解できたか。
まとめ	分かったことや考えたことを書き、発表し、学習のまとめをする。	・未成年者の喫煙が体に及ぼす影響は非常に大きく、喫煙しない強い意志を持つことが大切であることを知らせる。	喫煙をしないという気持ちを持つことができたか。

エ 考察

学級活動で本時を設定するにあたって、事前に国語の小教材で「喫煙開始年齢別・１日喫煙本数別にみた肺がん死亡率」のグラフをしっかりと読みとっていたので、そこから授業を始めることができ、内容を深めることができた。グラフを読みとれていた自信からか、子どもたちの発言も多かった。

教室で喫煙実験を行うことにためらいもあったが、目の前で実験を見ることにより、実感としてタバコの害が子どもたちに伝わったようである。子どもたちは、タバコの煙・臭い・色に敏感に反応していた。

学習のまとめで子どもたちが書いた感想には、タバコが全身の病気に影響があると知り、「タバ

コを吸って見たかったけど、吸いたくなくなった。」というように、「絶対吸わない。」という意見が多かった。学習のねらいにせまることができたと思う。

また、学習の感想で、「家の人にタバコを吸うのをやめてもらいたい。」と書いている子もいた。学校だけでなく家庭や地域も一緒に取り組んでいかなければならない問題であり、子どもたちが学習したこと、子どもたちの願いは学級便りを通して家庭に伝えていった。

タバコの害については、高学年では保健の学習で扱うが、内容的に重なることがあっても、学習の深め方は子どもの発達によって変わってくるので、積み重ねて指導していくことが大切であろう。

喫煙のすると肺はどうなるかな？



喫煙が体に及ぼす影響はこんなにあるんだ。



今日の学習を自分なりに書いてみよう。



喫煙防止のポスタ - を描いてみよう。



ア 題材設定の理由

「生活の仕方がかかわって起こる病気の予防」について学習するにあたり「たばこの害」については、5年生で取り上げ学習してきた。そこで、今回は、アルコールの害について学ばせていきたいと考えた。

学習するにあたり、6学年の児童に、お酒についてのアンケートを行った。その結果、酒を口にしたことのある児童が60%あり、それを口にした場所が殆どが家庭であることも分かった。未成年の飲酒や喫煙は、覚せい剤等の薬物乱用へのきっかけ（ゲートウェイ・ドラッグ）になることとしても心配されている。

これらの問題をふまえて、小学校段階から、喫煙や飲酒について学習していく必要がある。今回はテーマをアルコールに絞り、DAREのゲーム等も取り入れて学習させていきたいと考える。また、子ども達ひとり一人が、自らの健康の大切さに気付き、健康の保持増進に努められるよう、知識と対応の仕方についての基礎を学習させ、薬物乱用防止教育の指導につなげていきたいと考えて題材を設定した。

イ 指導のねらい

（ア）アルコールが児童に与える生理的、精神的な影響について、実験観察など体験的な活動を通して気付くことができる。

ウ 展開

過程	時間	学習内容・活動	指導・支援上の留意点	評価
はじめ T 1	7 分	サイクリングゲームをする。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 自転車を漕いだことがある。サイクリングにでかけましょう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・各自自転車を漕ぐ動作をする。 ・ブレーキがかからなくなった自転車がどうなるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・両手を胸の前で、自転車の車輪が動いているように手を回すようにさせる。 ・教師の言葉にあわせ、サイクリングをしていく様子を連想させていく。 ・ブレーキがかからない自転車が坂を転がっていく様子を想像させる。 	ゲームにとりくむ様子の観察
なか	1 5 分	新聞記事を紹介する。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> 少量のアルコールなのに、赤ちゃんはなぜ、死んでしまったのだろう。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・体に良くない ・小さいから毒になってしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミルクの中のほんの少量のアルコールで赤ちゃんが命を落としてしまったことから、アルコールが身体に与える影響について考えさせる。 ・今までの体験も合わせて話し合わせる。 	発言の様子の観察（関心・意欲・態度） 話し合い（思考・判断）

		<p>子どもはお酒を飲んではいけないのだろうか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飲んでも平気だった。 ・頭が悪くなるからいけないと思う ・おいしくないから飲みたくない ・法律で決まっているからいけない <p>アルコールが身体に入った時、身体の中でどのように変化していくかを知る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・口→食道→胃→小腸→肝臓の順に入っていく、肝臓はアルコールを分解していることを知る。 ・肝臓がアルコールを分解する様子や個人差があることを知る 	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもはお酒は飲んでも良いのか。また、飲むとどうなるのだろうか。」について考えさせる。 ・アルコールが身体に入って、影響していく順番を知らせ、肝臓がアルコールの毒を消す働きをしていることを理解させる。 ・口から入ったアルコールは胃や小腸で吸収され、血液に溶けて肝臓に送られる事を知らせる。 ・肝臓がアルコールを分解できる力は個人差があることを知らせる。 	<p>身体へのアルコールの影響について関心を持つ。(関心・意欲・態度)</p>
実験 T 2 分	1 5 分	肝臓の実験を目で見て、身体の中で起こる変化について知る。	・ブタの肝臓にアルコールを垂らし、レバーが変化していく様子を観察させる。	
T 1 まとめ	8 分	アルコールの害についてまとめる。	・お酒を飲むと体の中で起こっている様子について気づき、アルコールが体に与える影響について理解させる。	

エ 考察

本時の学習は、「病気の予防」の中の「生活の仕方がかかわって起こる病気の予防」の中の「たばこ・アルコール・薬物の害」についてである。この学習をするにあたり、授業を楽しく取り組めるように、「サイクリング」を導入に取り入れた。

これは、DAREプログラムの「グループワークの仕方」の中からアルコール依存症や薬物中毒になったらどうなるかということ、活動を通して体験させて、気づかせようというものであるらしい。この活動方法は、自転車をこぐ動作をさせ、丘の上からブレーキの利かない自転車に乗って降りていった時を、想像体験させて気づかせようというものである。

児童は、手を胸の前で、回す動作をおもしろがって取り組み、薬物の恐ろしさを知らせるきっかけとしては、単純でわかりやすかったと思われる。

次に飲酒へのつなぎとして、ミルクに酒を入れて飲ませた乳幼児が死んだという新聞記事をもとに、児童に、酒について考えさせたが、父親など身近な家族の飲酒と新聞記事とのずれがあり、予想はたてにくかったが、酒を飲んだ家族などの様子から、身体の影響について考えることは出来た。

「アルコールは身体の中でどう変化していくか」については、今回が初めての学習である為、初めて耳にする言葉がたくさんあった。単語だけを集めても、アルデヒド脱水素酵素(ADH)・酢酸(アセテート)・アセトアルデヒド・アルコール依存・代謝能力・海馬(記憶の中核)・アルコール分解能力・急性アルコール中毒・脳の萎縮・未成年者飲酒禁止法など難しい言葉ばかりである。言葉を覚えるだけでも大変であったが、児童は、酒の害についておぼろげながら、理解できたようであった。

続いてのレバー実験は、アルコールが身体の中の臓器に与える影響を、実験を通して、目で見せようと考えた。そこで、教師が、アルコールによって変化していくレバーの実験を、テレビの大画面に映し出して見せた。児童は「ウッファー」という叫び声と驚きの声が上がリ、教室中が騒がしくなっ

た。続いて小分けした実物をシャーレに入れて個々に渡すと、一段と児童の声は高くなったが、全く嫌がるというのではなく、正常のレバーとアルコールで変化したものを見比べ、または、棒でつついたり、触ってみたりしながら、レバーの変化について、しっかり確かめることが出来た。このことから、視覚に訴えた実験は、児童にとってかなりのインパクトを与え、アルコールの影響を感じることが出来たのではないかとと思われる。

しかし、一回の学習だけで、喫煙・飲酒・薬物防止が出来たわけではないので、これをきっかけとして、児童がさらに、自分の健康に心をとめ、ブレーキの利かない自転車に乗ることがないように指導していきたい。また、「DARE」の歌を通して、喫煙・飲酒・薬物防止を推進できるよう支援していきたい。

レバ - を使った実験

サイクリングゲ - ム

アルコ - ルが体に及ぼす影響



アルコ - ルによる
レバ - の変化を調べる
児童の様子は真剣そのもの。
(6 年生)

ブレ - キのきかない
自転車はどんなに
危険か
薬物もまた同じ (6 年生)

胃や肝臓だけではなく、血液
や脳にまでその変化・影響が
あらわれる (6 年生)

5 年生 ロ - ルプレイング「たばこのさそいを断る方法を考えよう」

先生によるロ - ルプレイ
やってみよう

グル - プで断る方法を
考える

断る方法を 1 対 1 で実際に
やってみよう



1 本吸ってみるよ
友達だろ
吸えるよなあ。

言葉や視線・身振り・手振
りにも気を付けながら
グル - プで考える
先生の支援も受けて。

先生がたばこをすすめる役、子
どもは断る役になってロー
ルプレイング、本当の友達
って何だろう？

保健室ではこんなことも全校児童に行った

<たばこのニコチンの害を教えるカイワレの成長実験>

さあ どんな違いが？



もう違いがでているよ。



7日目になると差は歴然。



<ジュース・お酒を缶から区別する>



ちょっと見ただけでは同じように見える缶もよく見るとお酒の缶だと分かる。子どもたちも真剣に分類する

<カルタ作り>



喫煙・飲酒・薬物乱用防止のカルタを作って、みんなに分かりやすく訴えよう

<街に見られる喫煙・飲酒防止のマ - ク>



大人も子どもも、お互いに注意しあうことが大切です。

<自動販売機のマ - ク>



20才未満の子どもたちの喫煙・飲酒は、法律によって禁止されています。

(5) 指導の展開例《中学校》

特別活動 学級活動(1年生)

喫煙・飲酒・薬物乱用防止カレンダーづくり

指導者 学級担任

ア 題材設定の理由

喫煙・飲酒・薬物乱用は、心と体の健康に大きく影響し、体の成長だけでなく人格の形成をも阻害してしまう。ところが最近、未成年の喫煙・飲酒・薬物乱用が増え、また薬物が簡単に手に入るようになって、「好奇心」から遊び感覚で薬物に手を染める人が増えてきた。喫煙・飲酒・薬物乱用防止カレンダーを作成することで、もっと多くの人に喫煙・飲酒・薬物乱用について正しく理解してもらうために、この題材を設定した。

イ 指導のねらい

- (ア) 喫煙・飲酒・薬物乱用が、心と体に与える悪影響を知り、その問題点を考えられるようにする。
- (イ) カレンダーをきっかけに、家庭や地域で、喫煙・飲酒・薬物乱用について正しく理解し、健康を守る社会環境づくりについて、考えられるようにする。

ウ 展開

指導事項	学習内容・活動	指導・支援上の留意点
1 喫煙・飲酒・薬物乱用が人体に及ぼす影響について調べる。	1年生喫煙、2年生飲酒、3年生薬物についてそれぞれが心身に及ぼす影響や社会に与える害について考える。	・資料を配付し喫煙・飲酒・薬物乱用について理解する。 ・カレンダーを配布することを通して自分たちの健康を守る社会環境づくりを目指す。
2 カレンダーの作成	月ごとにテーマを決めて、学習した内容をまとめる。	・わかりやすくなるように、イラストや表を取り入れる。 ・喫煙・飲酒・薬物乱用防止のために、訴えたいことを考え、カレンダーに表現できるようにする。
3 カレンダーの配布	配布する場所を考える。配布場所の分担をし、カレンダー配布の趣旨を考える配布する。	・配布場所については、人が集まるところ、自分たちのよく行くところなどを考えさせる。

エ 準備

- (ア) 画用紙、マジック、喫煙・飲酒・薬物乱用に関する資料

オ 評価

- (ア) 喫煙・飲酒・薬物乱用が心身に与える影響について理解できたか。
- (イ) 喫煙・飲酒・薬物乱用防止のため、訴えようとした内容は、ふさわしいものであったか。
- (ウ) そのための効果的なデザインが工夫されていたか。
- (エ) 薬物乱用のない社会環境づくりに主体的に参加することができたか。

ボランティア活動をしよう！

ア 題材設定の理由

喫煙・飲酒・薬物乱用防止で学習したことを生かして、ボランティア活動に主体的に参加することにより、社会的責任を果たすことにつながり、こうした活動を通して自分自身のセルフエスティーム（自己肯定感）を高めるためにこの題材を設定した。

イ 指導のねらい

- （ア）自分たちの住んでいる地域で活動している喫煙・飲酒・薬物乱用防止のボランティア活動を知る。
- （イ）自分たちもボランティア活動に参加することの大切さを学ぶとともに自己のセルフエスティームを高める。

ウ 展開

指導事項	学習内容・活動	指導・支援上の留意点
1 ボランティア活動とは？ 2 薬物乱用防止啓発活動計画を立てる。	地域で薬物乱用防止のボランティア活動をしている人やその活動内容を学習する。 自分たちでできる活動内容を考える。 ・薬物乱用防止を訴えるしおりを作成する。 ・たすきを掛けて、しおりを配布して啓発活動に参加する。 ・校内でボランティアを募集する。	・薬物乱用防止のボランティア活動に関心をもたせる。 ・薬物乱用防止のボランティア団体と打ち合わせをする。
3 啓発活動への参加	より多くの人に薬物乱用防止を訴える。	・地域にはたらきかけることにより薬物乱用防止の重要性について訴える。 ・啓発活動に生徒が参加することによってセルフエスティームを高める。
4 活動のまとめ	委員会だよりに活動の様子をまとめ、発表する。	・自分たちが行ったボランティア活動の意義を再確認させる。

エ 準備

- （ア）画用紙、マジック、パンフレット、たすき

オ 評価

- （ア）ボランティアに積極的に参加することができたか。
- （イ）ボランティア活動の内容を十分理解できたか。

(6) 指導の展開例《高等学校》

特別活動 生徒会活動（保健委員会）

STOP THE DRUGS 愛する自分を大切に

保健委員会担当教諭

ア 選定の理由

喫煙・飲酒・薬物乱用の防止教育活動として、高校生において身近な問題になりつつある薬物の乱用問題があります。この広がりを防止するために薬物に対する知識を高め、その危険性を再認識してもらうことが必要と考えた。

特に、乱用した人が社会復帰するための問題点についても考える。そのためには、アンケートなどの調査によって、現状を把握し、やめられなくなるというメカニズム等についても分析し、まとめ、文化祭等でパネル展示を中心に文化祭でPRすることで重要性を理解させるために、この題材を設定した。

(ア) 知識と情報としてのテーマ設定

薬物とは。
薬物を乱用すると。
薬物の種類と分類。
薬物の種類と用途、その作用について。
覚せい剤の神経系統に対する作用。
薬物の恐ろしさとは。
薬物乱用による心身の障害。「具体的な例」
若者に薬物乱用が増えている。
警察庁統計から紹介。

以上の設定テーマから調べたことを表やグラフなどにし、現状を理解しやすいように、工夫する。

(イ) 現状を調査・理解するためのテーマ設定

あなたの危険度をチェックしてみませんか。
薬物に対する考え方が間違っていないですか。
薬物乱用に関するアンケート内容について。

それぞれの調査項目内容を整理し、適切かどうか。グループなどで検討する。

イ 指導のねらい

- (ア) 喫煙・飲酒・薬物乱用についての恐ろしさと正確な知識を持ち、正しい考え方ができるようにする。
- (イ) 薬物乱用について現状を理解し、具体的な事例を学びながら心身の障害について理解する。
- (ウ) 喫煙・飲酒・薬物乱用を防止するために、自己分析ができるように危険度チェック表を作成し、薬物に対する考え方を理解できるようにする。
- (エ) 高校生が喫煙・飲酒・薬物乱用について調査した結果をもとに、文化祭に来校された方々へ展示・まとめをすることで喫煙・飲酒・薬物乱用の防止教育につながることを理解する。

ウ 展開

まとめ	テーマ	調査項目	指導のねらい
	・薬物とは。 ・薬物を乱用すると。	・薬物の医薬目的以外の使用を、乱用ということを知っているか。	・薬物乱用の乱用という言葉の理解度を知る。

	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物の種類と分類。 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物の種類。 	<ul style="list-style-type: none"> ・覚せい剤、大麻、ヘロイン、コカイン、有機溶剤など薬物としての意識を調べる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物の種類と用途、その作用について。 ・覚せい剤の神経系統に対する作用。 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物を乱用するとクセになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物は依存性が高いという意識があることを理解しているか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物の恐ろしさとは。 	<ul style="list-style-type: none"> ・フラッシュバックの恐ろしさ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物の乱をやめた後の幻覚や妄想が突然戻ってくることを知っているか。
	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物乱用による心身の障害。「具体的な例」 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物が妊娠中の女性や胎児へ与える悪影響。 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物が体への悪影響を与える。特に男女を問わず妊娠中の影響について知識をもたせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・若者に薬物乱用が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・乱用している人を見たことはあるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近に生活する環境に薬物は入り込んでいないか。意識をもたせる。
	<ul style="list-style-type: none"> ・あなたの危険度をチェックしてみませんか 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物をやってみたいか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・強い意志をもつ。
	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物に対する考え方が間違っていないですか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物をすすめられたら ・どんな場所ですすすめられたか。 ・やせられる。気持ちよくなる。 ・友だちが薬物に影響されていたらどうするか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・断り方を学ぶ指導。 ・強い意志で絶対に断ることを指導。 ・誰かに相談させる指導 ・甘い言葉にだまされない指導 ・友だちとしてやめさせる、という気持ちをもつ指導。
	<ul style="list-style-type: none"> ・警察庁統計から紹介。 	<ul style="list-style-type: none"> ・薬物をやるとまわりに迷惑がかかる。 ・薬物に関する法律があることを知ってるか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的な事故例や法律について理解させる。
報告方法	<p>文化祭にて「STOP THE DRUGS 愛する自分を大切に」というテーマで、パネルを中心に展示。 全校生徒を対象とし、PTAやその他来校された方々に、高校生において身近な問題になりつつある薬物の乱用問題について私たちの成果を報告し、強くPRする。</p>		

工 準 備

- (ア) B4用紙にアンケートをまとめたもの
- (イ) 模造紙、色紙、マジック、色鉛筆など
- (ウ) 第30回 生徒保健活動研究発表会資料

オ 評 価

- (ア) 喫煙・飲酒・薬物乱用についての正しい知識と考え方ができたか。
- (イ) 薬物乱用について現状を理解し、心身の障害について理解できたか。
- (ウ) 喫煙・飲酒・薬物乱用を防止するために、自己の分析ができたか。
- (エ) 文化祭に来校された方々へ展示・まとめをすることで、喫煙・飲酒・薬物乱用の防止教育につながることを理解できたか。